

主 文

本件抗告を棄却する。

理 由

本件抗告の趣意は、違憲をいうが、法廷等の秩序維持に関する法律による制裁の
手続及び所論の点に関する原決定の解釈が、憲法三一条、三二条、三四条に違反す
るものでないことは、当裁判所の判例（昭和二八年（秩）第一号同三三年一〇月
一五日大法廷決定・刑集一二巻一四号三二九一頁）の趣旨に照らして明らかである
から、所論は理由がない。

よつて、法廷等の秩序維持に関する規則一九条、一八条一項により、裁判官全員
一致の意見で、主文のとおり決定する。

昭和五五年七月二二日

最高裁判所第二小法廷

裁判長裁判官	木	下	忠	良
裁判官	栗	本	一	夫
裁判官	塚	本	重	頼
裁判官	鹽	野	宜	慶
裁判官	宮	崎	梧	一